

トップページ

JSPE 10周年記念行事企画が始動

日本PE協会は2000年9月9日に設立され、今年10周年を迎えます。過ぎし10年を振り返り、来たる10年への指針としていけるようなものを何か残しておきたいという趣旨で、理事・会員有志による10周年記念委員会が組織され2月20日に初会合を行いました。

今後次のような企画を実行に移していきますので、会員諸氏からの情報、ご参加お待ちしております。

- ・ JSPE 設立当時の写真、資料を整理し、将来に活かせる形とする
- ・ JSPE 設立当時お世話になった関係者へのインタビュー、座談会開催
- ・ JSPE総会(6月)とNSPE総会(7月)でJSPEおよび日本のPEの歴史をアピール

その他10周年記念としてふさわしい企画など

情報などお持ちの方は 10周年記念委員会アドレス 10thanniv@jspe.org までご一報下さい。

トップページ ;	P 1
州登録関連記事 ;	P 2
オレゴン州試験資格認定委員会情報 ;	P 4
州登録体験記 ;	P 7
PE 試験合格体験記 ;	P 14
州登録関連記事 ;	P 8
PE/FE 試験 ;	P 23
Ethics ;	P 23
会員からの投稿 ;	P 25
海外からの連絡 ;	P 29
理事会ニュース ;	P 30
Coming event ;	P 34
新入会員紹介 ;	P 34

【10周年記念委員会】 土屋雅彦、神野秀基、柏井善夫、植村大輔、廣瀬仁志、田崎稔、青木豊加、小林基彦、川村武也(連絡係)



2000年9月9日 JSPE設立会 於:東京アメリカンクラブ

州登録関連記事

各州PE法事情

PE registration rule, State by State

⑥サウスカロライナ州 State of South Carolina



South Carolina State Board
of Registration for
Professional Engineers and
Surveyors
Gene Dinkins, P.E.
Board Chair

PE 登録されるということは、たとえ市民権がなくともその州の一員となることである。

連載第6回は、NCEES 所在地、サウスカロライナ州 (SC) です。

・ サウスカロライナ州ボード会長は NCEES 会計担当も兼務

SC 州は州都コロンビアに PE ボードが位置するほか、約 200km 離れた大学の町 Clemson に NCEES がある。この地理的な近さもあって SC 州 PE ボードの Dinkins 会長は昨年より NCEES の会計担当 (Treasurer) も兼務している。(SC 州ボードニュースによる)

・ サウスカロライナ州も日本人の PE 登録は困難か

SC 州の PE 法は Code of Laws, Chapter 22 “Engineers and Surveyors”, Title 40、PE 規則は Code of regulations Chapter 49 “board of registration for professional engineers and surveyors” である。

PE 登録申請書に付随の宣誓書 “affidavit of eligibility” を見ると、2008 年 7 月より州法 8-29-10 により居住証明および SSN の提示が義務となったとある。従って日本居住のまま SC 州 PE 登録は困難が予想されるが、一方で同宣誓書中には「外国籍で米国にも住んでいない」というチェック欄もあり場合によっては州ボードの判断に委ねられる可能性もあるのかもしれない。

なお、ABET 適合でない大学卒業資格の審査について、CEAB (カナダ技術認証ボード) が Washington 条約に認証された工学系プログラムであれば NCEES-CE による評価は不要という規定がある。Washington 条約参加国とはオーストラリア、香港、アイルランド、ニュージーランド、英国などの英語を母国語とする国であって日本や韓国は含まれない。

必要リファレンスは 5 名。うち



3名はPEであること。リファレンスの条件は"have personal knowledge of applicant's character and personal reputation" また Experience record の詳しい記載例が示されており、州法・州規則は難解であるが、登録様式は親切にできている。

州規則 Article6 は CPD に関する詳しい規定。2年で30PDH。登録初回はCPD免除。CPD証に記載すべき事項、CPD発行機関の証書保管義務などが細かく定義されている。

PEの下位資格として"Category B Associate PE"というものも規定されているが、PEの監督下でのみ技術業務が許されるとあるだけで登録者も10名程度しかいないマイナーな資格であるようだ。因みにSC州の人口/PE登録者は440万人/4000人。

・ 政策ロビー活動が盛ん？

SC州PE協会(SCSPE)のニュースレターを見ると、エンジニアリングに関する連邦法、州法の改正や新規制定に対して積極的に意思表示を行っている。またその活動はACEC(エンジニアリング業協会), ASCE (Civil エンジニア協会) と合同で行っている

SC州PEボードはSC州PE協会と合同で半年に一度の合格祝賀会"licensing ceremony"を行っている

Wikipedia などによると、SC州は電力消費の50%を原子力発電に依存しており、州内に原子力発電所が4箇所ある。

4. Engineering Ethics について

これまでに5つの州法を見てきたが、いずれの州規則の中にもEthics Codeが明文化されており、「法律を補完するのが倫理規定」という考えが浸透していることが窺われる。

翻って国内の省庁や学会協会の倫理規定を見ると、「倫理規定をいきなり法律に制定しようとして実効を挙げられず骨抜きになってしまう例(例えば政治資金に関する倫理規定)」あるいは「何らの実例蓄積や、強制力を持たず単なるお題目に終始する例(工学系学会の倫理規定など)」も多いように思われる。国内でも医学系学会の倫理規程はその点実用的なものかもしれない(産婦人科学会の代理母禁止規定など)。

「倫理規程を論ずる」というと、高尚な知識と経験を要求され、とても自分の手に負える問題ではないと感じてしまう向きも多いようだが、少なくとも米国PEコミュニティの中における Ethics Code とは独立したエンジニアが多様な顧客を相手にサービスを提供する日々の業務の中で直面する様々な悩み、トラブルを事例として丹念に蓄積し、それを州ボードの判定などを通じて客観的に知識化したもの。および洗練されて法令化されるべきもの という極めて実用的なもののように感じられる。

今回は毛色を変えて韓国PE事情を書く予定です。

記 2010/ 3/ 9
理事 川村武也

オレゴン州試験資格認定委員会情報

始めに例によって、OSBEELS（オレゴン州試験ボード）のウェブサイトに掲載されている、Examinations & Qualifications Committee（試験資格審査委員会）の議題・議事録から気になるトピックをお知らせします。今回は09年12月11日分の議事録となります。

前日も12月末の時点で10月9日分の議事録がアップされていませんでしたが、今回も同様の状況で、3月後半の時点で2月12日のミーティング議事録がありません。しかし試験ボードの議事録はどの州でも公開しているというわけではなく、ここに掲載されている情報は米国PEの現状を知る上で大変貴重なものですので、少々スピード不足は「仕方ない」と考えざるを得ないでしょう。

ワシントン州はForest部門の試験について、これまで提供していたオレゴン州への試験問題作成及び採点の援助を休止し、ワシントン州での試験継続も休止すると決定した。ワシントン州の担当官の業務変更が理由。オレゴン州で後継者を立て、逆にワシントン州への援助を行う見込み。委員会は1月12日のボード会議に、本件を申し送りする。

マイナーな分野では試験継続が、かなり属人的な要素と努力で支えられていることが伺われます。このような分野の受験者は、試験情報には充分注意を払う必要があるでしょう。

委員会では、ある土地サーベイヤーの受験者（2009年10月の受験者と思われる）の「オレゴンの土地サーベイ試験の受験票に、試験会場の完全な住所が掲載されていなかったためにOSBEELS事務所で試験が行われると勘違いし、結果受験できなかった」とのレターにつき検討した。その結果、当該受験者の願書と申請料を次回4月受験分に振り替えることとし、また受験票レターに試験会場の住所を掲載することとした。

妙な事件が起きたものですが…。何でもしっかりと、事前に確認することが大事ですね。これから受験される方々は注意しましょう。

The American National Standard Institute (ANSI) は、National Council of Examiners for Engineering and Surveying (NCEES) が策定した Model Law Surveyor (MLS) の規格を最近承認した。MLS規格は、professional surveyor（プロフェッショナル測量士）としてのライセンス取得のための要求事項を概説したものである。ANSIはModel Law Engineerの規格も承認しており、またModel Law Structural Engineerの規格もレビュー中である。

NCEESが、各州でのPE等の要件について一元化を図っているもののように思われますが、詳細把握には更なる調査が必要です。以下のリンクも参照下さい。

Model Law Surveyor

<http://search.ncees.org/search?q=model+law+surveyor&btnG.x=2&btnG.y=12>

Model Law Engineer ·
<http://search.ncees.org/search?q=model+law+engineer&x=13&y=14>
Model Law Structural Engineer ·
http://www.ncees.org/Records/Structural_engineers.php
Model Law · www.ncees.org/Documents/Public/Model%20Law.pdf

NCEES は、2010 年 04/10 月試験及び以降に適用される指針について、次のような通知を行った。

農学部門 PE 試験の新指針の導入（10 月試験より適用）

以下の科目における、試験内容の変更（10 月試験より適用）

Agricultural Engineering Principles and Practice (PE)

Structural I & II

Mechanical Engineering

Civil Engineering

Fundamentals of Engineering

Civil PE 試験における Transportation depth module の指針が、どのようにアップデートされたか（04 月試験より適用）

使用を承認された計算機のリスト（04/10 月試験分）

詳細は NCEES のウェブサイト www.ncees.org を参照のこと。

受験対象者は注意下さい。

Accreditation Board for Engineering and Technology (ABET) 認定に関して：

Oregon Institute of Technology (OIT) の機械工学プログラムが、ABET の Engineering Accreditation Commission (EAC) によって認可された。

オレゴンの委員が、University of Portland (U of P) を訪問し、土木、機械及び電気工学プログラムの ABET 再認可を視察した。

PE として米国各州に登録する際の学歴審査において、大学の授業が ABET に認可（ないしはそれと同等である）ことが要件となります。PE 取得・登録希望者は、ABET についての基本的な内容を認識しておくべきでしょう。相互に工学プログラムを認可するワシントン協定並びにソウル協定において、ABET と JABEE（日本技術者教育認定機構）が共に協定締結者に含まれておりますが、JABEE プログラムの広がりには今しばらくの時間を要するようと思われます。以下のウェブサイトも参照下さい。

ABET · <http://www.abet.org/>

JABEE · <http://www.jabee.org/>

他州 PE のオレゴン州での登録について、今回も前回同様、ずっと以前に他州で登録された PE についての報告が目立った。

Colorado で 1977 年に FE/PE 合格した PE ・ 当時の記録をレビューした結果 OK となった
California で PE 試験に合格した PE ・ FE 試験をパスしておらず、免除を要望したが結局
NG となった

Colorado で 1972 年に FE/1974 年に Colorado 独自の PE 試験に合格した PE ・ Colorado と
のやりとりにより、これらの試験が NCEES の試験と同等であると認められ、OK となった
Nevada で懲戒処分を受けた PE ・ 今回のオレゴンへの申請とは無関係と判断し、OK とな
った

Colorado で 1977 年に FE/PE 合格した PE ・ Colorado からの情報をレビューした結果、OK
となった

Rhode Island で 1970 年に FE/1974 年に PE 合格した PE ・ 当時の Rhode Island の PE 試
験の内容確認の結果、OK となった

ABET 認定されていない大学の、Bachelor of Science 学位を持つ PE ・ レビューの結果、
当該学位で充分であると判断され、OK となった

最後の例は、農学士である筆者も共感する判断です。

試験申請者について

ABET 認定されていない工学 Master of Science (Engineering でない) 修士号と、2 年 3
ヶ月の職歴が認められず、更に 1 年と 3 ヶ月の職歴が必要とされた

Structural Engineering II と III の受験者が、2011 年 4 月の NCEES Structural Engineering
試験への願書及び申請料の申し送りを要望し、受理された

さて、前回の PE マガジンでは、詳細調査前に報告すると受験者の混乱を招くと判断し、
敢えて掲載しなかったのですが、実は 2009 年 10 月 9 日の議事録に、以下のような内容の
記述がありました。

「The Committee reviewed an email from Jerry Carter, NCEES Executive Director, regarding an NCEES recommendation to cease accepting initial applications for licensure from foreign candidates. Mr. Carter also advised Oregon to no longer accept applications for examination from foreign applicants after the October 2009 exam administration...

この内容により、JPEC にて案内・実施管理を行っている、日本で実施される PE 試験は影
響を受けませんが、例えば筆者のようにオレゴン州へ直接受験申請を行い、現地で受験す
るという道は閉ざされるのではないかと JSPE 内で議論となりました。それは日本人受
験者の機会を制限することになりかねませんので、しかるべきルートで調査を実施しまし
た。その結果、

現在のところ、とりわけオレゴン州で、外国人受験者の申請を却下する動きはない

NCEES が日本人など外国人受験者の受験資格審査、及び試験に関わるプロセスが変化してきているので、その一環ではないかと思われる（例えば、資格審査が州ボードではなく NCEES で行われるなど）

といったことが判明し、当面、これまでと大きな違いはないと結論しております。

しかしながら、オレゴン州における PE 登録の際に、本記事の前半でも触れている ABET の認可プログラム受講の要件がより厳格に適用される流れとなっており、事実上日本人のオレゴン州登録の道はかなり狭くなっております。日本の大学の ABET 適合評価には、特に成績証明書、履修課程説明書などが英文で完備していない場合などには時間を要するケースがあり、オレゴン州への PE 登録申請料の支払いは、NCEES で適合評価を取得した後にする（そうしないと、ABET 適合取得に 6 カ月以上を要した場合に再度申請料を申請されることがある）、などの自衛措置も検討する必要があります。関連のウェブページの記事 (<http://www.jspe.org/cgi-bin/informations/diary.cgi?no=150>) も合わせてお読み下さい。

今後も、会員の利益に繋がる情報の調査・広報に努めて参ります。

PE 鈴木 央

合格体験記

PE 登録体験記 1

1. 氏名：山本 義和
2. 会員番号：PE-0175
3. 登録州：ワシントン州
4. 専門分野：Mechanical

5. はじめに

このたび無事ワシントン州へ PE 登録完了しました。以下に経緯と行動や考えた事をまとめます。私は申請書提出から登録完了まで通常以上に時間がかかってしまったと思います。その原因を含め、失敗点や不安に思った事も正直に書きます。今後州登録する人に役に立てば幸いです。

6. 経緯

2007. 4 FE 試験受験し合格
2008. 10 PE 試験受験

試験に受かって落ちても JPEC や JSPE にお世話になると考え、試験



数日後 JSPE の事務所に伺い、州登録についてオレゴンに登録している人が多いことやワシントン州の対応がよいなどといった話を伺った。(合格発表はまだだったが)

2009. 1 合格証明書受領

合格に感動しつつ登録州をどこにするかを頭の片隅に置くが、特に何もせず。しかし漠然とワシントン州に気持ちは傾いていった。

2009. 3 JSPE 合格祝賀会参加および入会

祝賀会ではオレゴン州とワシントン州の登録の説明があったが、申請書がまったく異なることとワシントン州は8項目くらい業務経歴や他部門との連携など書かなくてはならないと知り、ワシントン州登録の場合何を書いて良いかわからず、ワシントン州登録を一度白紙に戻した。同時に JSPE に入会し、CPD セミナーなどに出来る限り参加し、継続的自己研鑽と同時に同じエンジニアと人脈を作ろうとした。

2009. 4 中 JSPE の PE の方に聞きながらでもと考え、ワシントン州に登録することを決心し、ワシントン州のホームページから Application Form を印刷した。

2009. 4 末 Application Form の中にある他部門との接触や連携について私は機械部門のため電気や建築技術者でも良いかと JSPE の PE の方に確認したら医者や弁護士が良いとの事であった。身内や友人には看護師はいても、医者も弁護士もいないため PE 登録できるか心配になった。

2009. 5 上 友人に相談したところ、彼は安全衛生に関する仕事をしているが、会社に産業医はいないかと聞かれた。弊社は産業医が定期的に来ている事と私は弊社で安全衛生委員会の委員でもある事から道が開け、Application Form を徐々に書いていった。

2009. 6 JSPE の CPD セミナー参加時に JSPE の PE の方にサインをいただき、社内ただ一人いた PE に Application Form の Supervisor 記入欄への記入をお願いした。

5人の紹介が必要であったが、私は運よく社内には1年以上一緒に仕事をした PE が一人いたので、Supervisor 記入欄への記入は良かったが、あと2人の PE のサインは JSPE の方に頼んだ。残りの2人は社内の上司に頼んだ。この時点で6月末。

2009. 7 初 Washington へ送付

2009. 7 中 Low and Ethics Exam が手紙同封で手元に届いた。

予想以上に対応が早く、書類審査は通ったと早合点した(失敗)。

実際手紙には、次のものが受け取っていないと書かれていた。

Low and Ethics Exam (当然)

NCEES とオレゴン州から EIT と PE ライセンス証明

卒業大学の英文化した正式書類

Low and Ethics Exam 以外の2つはワシントン州が NCEES に送ってもらうよう依頼しているところだろうと考えた(上でも書いたが、予想以上に対応が早かったのと FE 受験時に大学の卒業証明書などは送付済みであったので。はじめにでも書いたようにこの考えが申請書送付からライセンスまで時間かかった原因となった)

8月初旬に Low and Ethics Exam を回答して送ったが、このあと10月9日まで2ヶ月以上何の進展もなかった。(採点はしていただろうし、それを進展とすれば進展か。)

2009. 10 10月9日 JSPE の新日本石油根岸製油所 IGCC プラント見学会・昼

食会に参加

この見学会で多くの方から PE 登録進捗状況を気にかけていただき、アドバイスいただいた。NCEES に試験結果を送ってもらうよう依頼すること。

また同時期に YES（横浜エンジニアーズサロン）に参加したときに講師をしていただいた PE の方から、米国は組織からの質問は対応が悪いことがあるが、個人からの質問には必ず誠意ある回答がある。と伺い、自分でワシントン州などにわからないことをどんどんメールしようと決心した。

2009. 10 中 早速私の PE 試験結果を送って下さいという依頼のメールを NCEES を宛先にし、cc でワシントン州にして送った。

また、サインいただいた PE がいずれもオレゴン州の PE であったため実在する PE である証明を送ってもらうように、同様にオレゴン州とワシントン州にメールした。

2009. 10 末 約 10 日後オレゴン州より、私の PE 登録がデータベースにないから登録する必要があるというような誤解していると思われる内容のメールが届いた。

その後 1 日置きくらいにメールをし、オレゴン州の誤解を解いて、サインいただいた PE の証明を送ってもらうようにした。結果的には思うように意図が伝えられず、誤解を解く前にライセンスされたが。しかし、自分の拙い英語にも必ず返信してくれた。

2009. 11 初 ワシントン州に NCEES から私の試験結果受け取ったかとメールで確認した。それに対する返信には、「受け取った。11 月 19 日にライセンスされるだろう。」と書いてあった。うれしかった。

2009. 12 初 ライセンスが家に届いた。

7. まとめ

私は PE になれたが、正直自分の英語には全然自信がない。会話はもちろん読み書きも。そのため不明点や進捗状況確認などの問い合わせもしばらくためらっていた。そして初めて NCEES やワシントン州にメールをするときは非常に緊張し、通じるだろうかと不安だったが、上述したように送ったメールに対して基本的に翌日メールチェックをすると返信があった。しかも FE や PE 合格する程度の英語力があれば問題なく通じることもわかり、ワシントン州やオレゴン州にメールすることにそれほど緊張しなくなった。

私は PE 登録を通して自分主体で動かなくてはならないことやどんな質問もそして拙い英文でも誠意をもって対応してくれるということを知った。

私をここまで導いてくれた、太田 PE、神野 PE、川村 PE、平山 PE、日野 PE はじめ、お世話になった多くの先輩 PE にこの場を借りて感謝申し上げます。

今後は PE の名に恥じぬように責任ある行動をするとともに、継続的且つ貪欲に技術を吸収、追求し、将来は若手技術者にアドバイスや指導ができればと思います。

PE 登録体験記 2

1. 氏名 : 山浦 良久
2. 会員番号 : PE-0178
3. 登録州 : Texas 州
4. 専門分野 : Mechanical
5. はじめに

2007 年にテキサス州に発電所の許認可、見積もり設計業務で赴任したところ、PE でなければ、法律により Engineer と名乗れないと知りました(Licensing が要求されない業務の場合は OK)。更に 2008 年の法改正で、見積もりや Proposal 用の設計図書にも Seal は要求されないものの、PE 番号、氏名の図書への記載が義務付けられ、PE 資格がなければ、まともに Engineer として仕事ができないと思うようになりました。そこで受験を思い立ち FE 試験を 2008 年 10 月に、PE 試験を 2009 年 10 月に受験し、2009 年 12 月に合格と同時にテキサス PE として登録されました。

6. 受験申請書の入手方法

TBPE (Texas Board of Professional Engineers) の Homepage (<http://www.tbpe.state.tx.us>) に行き、Exams & EITs というところから関連 form がダウンロードできるようになっています。FE 試験は Texas 在住が条件にありますが、Web から簡単に申し込みできます。PE 試験申込書は、個別フォームの他、Packet として纏められたものがあり、申請の流れ図、提出時の必要書類のチェックリストがついています。PE 試験では、テキサス在住は条件にはなっていません。

7. PE 受験申請書

初回の受験申請は、資格審査期間を考慮し概ね試験日の 4 ヶ月半まえが提出期限となっていますので、申請書本文と付属書類準備を早めに始める必要があります。申請書には、INS (Immigration and Naturalization Service) status と SSN (Social Security Number) の記載が必要です。SSN は保持していましたが、INS は何を書けばよいのか不明でしたので、問い合わせたところ長期滞在の Visa の種類を書けばよいとのことでした。

8. 英語能力証明

米国以外の大学を卒業した場合は、TOEFL (550 点以上) と TSE (Test of Spoken English) (45 点以上) の試験結果の証明書を要求しています。しかし、英語試験は両者を統合した 120 満点の Internet base の TOEFL iBT に移行しており、従来型の試験は事実上受けられません。そこで TBPE に相談したところ、米人上司から英語能力を保証するレターを出してもらえばよいことがわかりました。

9. Credential evaluation

米国以外の大学を卒業した場合は、民間評価会社による大学、取得単位に関する Credential

evaluation が必要です（近年の卒業者は、Washington Accord で認定された大学であれば不要との話も聞きますが詳細は知りません。）。評価会社を TBPE が 5 社紹介していますので、この中から TBPE と同じテキサス州オースティンにある会社を選びました。評価結果は、本人が一切関与できないように、日本の大学から卒業証明書、成績証明書、講座の単位 (hours)、講義内容（学部の英文紹介パンフレットで代用）を直接、米国の評価会社に送り、そこから評価結果を TBPE に直接送ってもらう必要があります。標準料金の 110 ドルでは、評価期間に最大 1 ヶ月を要しますので、早めに対応が必要です。ただし、75 ドルの Rush 料金を払えば 3 日で対応してくれます。

10. Reference statement

PE 受験申請には 3 名の PE (Texas 以外でもよい) の Reference statement が必要です。事務所に 2 名の米人 PE がいましたが、3 人目は客先の PE に頼みました。いずれの方も快く引き受けてくれましたのでほっとしました。日本での設計経歴についても認められるのか不安でしたが、こちらの PE が、申請者が記載した Supplementary Experience Record の各頁にサインしてくれれば認められます。

11. Ethic exam

受験申請書に同封して、Homepage からダウンロードした Ethic 試験の回答を送付します。OCCUPATIONS CODE. の CHAPTER 1001. ENGINEER を見て回答すればよいので、まず合格しますが、落ちたら別の試験問題が送られてくるそうです。

12. PE exam

受験申請書を送付して、約 1.5 ヶ月後に受験を認める旨の通知を受けました。これで、Web から受験申し込みができますので、受験料の 250 ドルを払い込みます。ダラス、フォートワース地区の試験は、Amon G. Carter Jr. Exhibit Hall というフォートワースにある見本市会場のような大きな部屋で行われます。試験結果は、3 ヶ月後が建前ですが、2 ヶ月ほどで得点と合否がメールで連絡されます。その後、2,3 週間して手紙で得点、合格基準とともに正式に合否通知がきます。登録の最終段階として、TBPE への seal の印影登録を 60 日以内に終了しなければなりません。なお、最初の年の登録は有効期限が 1 年未満で、登録費は受験料に含まれています。

13. PDH

1 年毎の更新時に 15hr の PDH が求められています。自習は 5hr までしか認められないので、Ethics の 1hr とあわせ 10hr を、学会出席などで稼がなければならないようです。

PE 登録体験記 3



1. 氏名： 森山 亮（モリヤマ リョウ）
2. 会員番号： PE0179
3. 専門分野： Chemical
4. 試験日： 2009/10/23（金）
5. 試験会場： Lane Events Center
（オレゴン州ユージン）
6. 参考書： Chemical Engineering Reference Manual
Practice Problems

7. FE 試験から PE 試験申し込みまで

2004年4月の受験（受験地：東京）でFE試験に合格。このとき6月頃にFE合格を匂わす文章とともにABET証明を提出するようという連絡が来た。証明書を提出後、12月にやっと合格の連絡。晴れてEngineering Internになる。

FEのままでは名刺にも書けないし…というよりも自分のエンジニアとしての実力を知るためにPE試験をちょっとだけ意識し始める。

2005年春に関西への転職を機にJSPE関西のセミナーに出席し、人脈を作ることに精を出す。2007年に鬼金CPD関西コースでプロジェクトマネジメントの勉強をしながらリファレンスをお願いできるPEの方を探す。

2007年秋から日本でPE試験が受けられるようになったが、川村PEのオレゴン州PE受験および合格体験話を聞き、米国での受験およびオレゴンの山々に思いを馳せる…

2008年9月にPMPを取得したことを機にJSPE関西支部の人脈を頼ってリファレンスをお願いする。さらにオレゴン州で受験すると公言し、後戻りできない状況に自分を追い込む。2009年5月に書類を揃えてOSBEELSへ送付。

8. 試験申し込み～受験

リファレンスマニュアルをコピーし、通勤電車の中で読むことはPMP取得以降続けていたが、2009年6月から問題を解いたり、自分用のまとめノートを作成したりと本格的に勉強をし始める。

試験申し込み後、審査料\$225が請求されたが、OSBEELSから連絡が無いため、不安になる。7月中旬に、申請書類が受理されているかどうかをメールにて問い合わせると、すぐに審査中である旨の返信が届く。

8月10日にOSBEELSから受験資格を得られたとの連絡があり、NCEESに受験料\$250を振り込むように指示がある。以前FE試験の時にABET証明を出しているためだと思われるが、受験資格に関する追加の要求は何も無かった。

10月に入ってNCEESのホームページから受験票がダウンロードできるようになり、米国旅行準備。オレゴン州への航空券は格安航空券で関空-成田-ポートランドの往復で¥80,000（思っ

たより安い)。

試験日の3日前にユージンに着き、町をぶらぶらしながら時差ボケを直そうと試みるが、結局試験の3日後の出発日までボケたままで、夜遅くまで寝られなかった。

試験会場は Lane Events Center というユージンのイベントホールで、大きな体育館に机を並べているような感じだった。オレゴン州の気候は北海道に近く、やや寒い上に、雨季で雨の天候が続いた。試験会場内は適温だったが、試験当日も雨で、自転車で試験会場に向かったため、帰りにずぶ濡れになった。

ケミカルの試験について、午前と午後の問題で難易度はあまり変わらないように思えた。試験勉強で Practice Problems を解いていたが、その問題に比べると素直な問題が多く感じられた。解くために必要な定数や値は問題内で与えられているものがほとんどだった。大変だったのは時間配分で、8時間(480分)で80問を解くため、実際にリファレンスマニュアルや自分でまとめたノートを開いて調べる時間はほとんど無かった。

オレゴン州の受験の場合、試験後に Pre-Registration という名称のエンジニアの資格に関する法律や倫理の問題を渡される。現地で解き、提出したが、点数が足りなかったらしく、日本に帰ってきてから再提出させられた。この問題で合格レベルに達しないと PE 登録させないという文言がある。

9. 試験後～登録

オレゴン州現地で受験した場合は受験時に OSBEELS が審査しているためか、PE 登録が非常にすんなり行った。実際に書面で合格通知が来たのは1月中旬だったが、その前に川村 PE から OSBEELS のホームページでオレゴン州 PE として私が登録されているという情報を1月初旬にもらった。

10. 最後に

この度の PE 受験では、リファレンスをお願いした PE の方はもちろんのこと、私に(勝手に思っているのですが) PE 受験のモチベーションを持続できるような刺激を継続的に与えてくださった JSPE 関西支部鬼金セミナーの方々、そして勉強中も暖かく見守って、米国への受験にも文句も言わず?送り出してくれた妻に多大なるご支援を頂きました。この場を借りて厚く御礼を申し上げますとともに、今後 PE 受験を考えておられる方々への参考になることを期待します。



PE 試験合格体験記 1

1 氏名 藤田 一作

2 会員番号 PEN0040

3 専門分野 Mechanical

4 試験日 2009 年 10 月

5 使用した参考書、問題集

(1) Practice Problems for the Mechanical Engineering Pe Exam

(2) Mechanical Engineering Reference Manual

6 試験当日持ち込んだ図書

(1) Fundamentals of Engineering Supplied Reference Handbook

(2) Practice Problems for the Mechanical Engineering Pe Exam

(3) Mechanical Engineering Reference Manual

(4) 自作ノート

(5) 工業熱力学(基礎編) 谷下市松著

7 体験記

FE 試験を受験したのが 2005 年の 4 月でしたので、PE 試験まで、4 年半開いてしまいました。

その間、子供が二人生まれたり、日本の総理大臣が 4 人替わったり、リーマンショック・サブプライムローン問題と、世の中が大きく変わったような気がします。

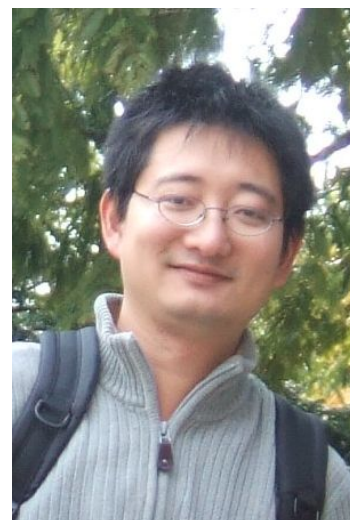
PE 試験の勉強を本格的に始めたのは、願書を提出した 7 月からになりますが、いかんせん 4 歳になったばかりの息子がいるため、家ではほとんど勉強出来なかったもので、とにかく勉強時間を確保するのに苦労しました。

朝 4 時に起きて出勤まで勉強したり、通勤電車の中、出張中の新幹線の中、近所の図書館、ファミレス、喫茶店などでなんとか時間を作って勉強しましたが、Reference Manual を全部学習することはできず、

Practice Problem についてはほとんど手つかずで、ざっと斜め読みした程度です。ただ、Economics は得点源になるので、優先的に学習しました。

試験前の三日間は、Reference Manual の図表やら公式やらに付箋紙とタブを張り付ける作業と、問題を解いたノートを製本する作業にあてました。

試験開始前のオリエンテーションでは、新型インフルエンザの疑いのある受験者は試験を棄権するように注意をしていましたが、交通費と受験料を考えると、さすがに棄権する人はいませ



んでした。

午前的一般科目については、Reference Manual と同程度の難易度でしたが、ほとんどが US 単位なので、これから受験勉強をされる方は、ぜひとも US 単位系に慣れておいてください。

午後の専門科目については、発電プラント関係の業務に携わっているため、Thermal and FluidDynamics に挑戦しました。

1問1問解くのに時間を要しましたが、業務経験上、だいたいこれぐらいのオーダーになるという感覚が役に立ちました。

しかしながら、全体としての出来は6割程度という感じだったので、1月に合格通知が届いたときは、安堵しました。なによりも受験料が無駄にならずに済んだことにほっとしました。

最後に、あたたかい声援を送ってくださった JSPE 会員の皆様と、健康面も含めていつもサポートしてくれた妻に深く感謝します。

PE 試験合格体験記 2

1. 氏名 : 檜山 直矢 (ひやま なおや)

2. 会員番号 : PEN-0038

3. 専門分野 : Mechanical

4. 試験日 : 2009 年 10 月 25 日

5. 受験動機 :

エンジニアという道を選んだ以上、それを極めたいという気持ちがあり、その過程に PE があった。また、入社早々から抱いていた「自分はエンジニアなのか？」という問いの一つの答えに PE があった。

6. 試験準備

業務の関係上、海外への長期出張などが入る可能性もあったことから、余裕を持って試験の 10ヶ月前から準備を始めた。

実際には、運よくこの間に長期出張等は無かったが、平日は終電で帰る日が多く、勉強量は 0.5~1 時間、土日は子供を寝かしつけてからの 2,3 時間だった。

使用した参考書・問題集は以下の通り。

① FE Review Manual



- ② Mechanical Engineering Reference Manual for the PE Exam (MERM)
- ③ Practical Problems for the Mechanical Engineering PE Exam
- ④ Mechanical Engineering Sample Questions & Solutions

自分の場合、2003年のFE試験から大分間が空いていたこともあり、まずはFE試験の際に使った①の内容を復習することから始めた(1ヶ月)。その後、②を一度通読し(2ヶ月)、③を3回ほど繰り返し(5ヶ月)、最後に④を数回繰り返した(2ヶ月)。

また、②と③を進めていく過程で、要点を少しずつ自作のノートに纏めていった。

午後の試験は、Thermal and Fluids Systems を選択することで決めていたが、時間に余裕があったため、全てを満遍なく進めた。

この間心に決めていたことは、1日30分でも机に向かうこと。そして「深追いをしない」こと。特に②③の中には、自分には不慣れな内容で簡単に解けない問題もあったが、試験でも合格ラインは正解率6,7割とのことだったので、やってわからないところは深追いせずに、まずはペースとリズムを優先した。

7. 試験

持参したのは、②③④と自作のノート。

試験は午前40問、午後40問と聞いていたが、配られたマークシートの答案用紙は50問分になっていた。後で良く見ると”40問以降は環境工学を受ける人だけ”といったような記載があったが、それに気付かず「今年から問題数が増えたの!？」と勘違い。結局、午前中の試験はそのまま最後までハイペースで問題を解き続け、全問(40問)を終えた時点で丸々1時間余ってしまった。

尚、試験中は午前・午後を通して自作のノートがとても役に立った。結果として、大半の問題はこのノートだけで解答でき、MERMは数回しか開くことがなかった。中には机の上に山のように資料を積上げている人もいるが、決して気負う必要はない。

8. 終ってみて

参考書や練習問題の内容には自分の業務に直接通ずるものも多く含まれており、またそれらを解き進めていく過程のなかで、日々達成感を得られることが出来た。結果として合格することができたが、例え不合格だったとしても準備に費やした時間を後悔することはなかったと思っている。

赤線とマーカーでいっぱいになったMERMと自作のノートは、今では自分の宝物である。

PE 試験合格体験記 3

1. 氏名：佐藤寿和
2. 会員番号：PEN-0039
3. 専門分野：MECHANICAL
4. 試験日と会場名：1回目 2009年4月26日 東京, 2回目 2009年10月25日 東京
5. PE 試験挑戦回数：2回
6. 使用した参考書、問題集：
 - 1) Mechanical Engineering Reference Manual: for the PE Exam Twelfth Edition, Michael R. Lindeburg (著)
 - 2) Practice Problems for the Mechanical Engineering PE Exam, Michael R. Lindeburg (著)
 - 3) Mechanical PE Sample Examination, Michael R. Lindeburg (著)
 - 4) Quick Reference for the Mechanical Engineering PE Exam, Michael R. Lindeburg (著)

7. 勉強時間

1回目 (2008, 12 - 2009, 4): 週1日できたかどうか、6-1) を主に精読。

2回目 (2009, 5 - 2009, 10): 週2日、6-2) の問題演習を中心に。

8. 試験場に持参した図書類

6の資料と英和辞典。ただし試験中に使ったのは1)のみ。

9. 合格体験記

【受験動機】

もともとは勤務する会社にて若手はFE試験をパスすることが義務になっており、FEを合格したならいっそのことPEまで取得してしまえ、という単純な動機でした。

ただ、海外で仕事をするにつれ、エンジニアとしての実力を客観的に評価できるPE資格の重要性を実感し、最近では「自分の価値を客観的に示すために取得するんだ」と意識が変わってきました。

【合格までの道のり】

自分は2009年の春と2009年の秋の2回受験をしました。

なぜ1度試験に落ちたかを冷静に振り返ると以下の3点がまずかったと思います。

1. Reference manualを読み込むだけで、問題演習が足りなかった。
2. 苦手分野を後回しにしたため、得意分野のみしか問題が解けなかった。
3. 勉強時間の確保ができなかった。

1. はPE試験は限られた時間で問題を解いて点数をとるために、Reference Manualを読んで知識を増やすのではなく、実際に手を動かし問題を解きながら解らない点をつぶしていくことができいていませんでした。結果、1つの問題を解くスピードが遅く時間切れになってしまいました。

2. は不合格通知と一緒にどの分野が何%の正答率だったかが書かれた紙が送られてきますが、如実に得意分野の正答率と不得意分野の正答率に差がありました。自分は材料力学と材料が専門だったためこれらは100%に近い数字が出ている一方で、苦手意識のある熱、流体力学は散々たる結果になっていました。

3. は言い訳になりますが受験申し込みをした直後に海外出張となり、唯一勉強時間の確保できる週末は日ごろ妻に任せている家事・炊事に時間をとられ、また受験直前2週間は日本に帰国したものの客先との会議漬けでほぼ勉強に手がつきませんでした。

1回目の不合格通知を受け取った瞬間に、2009年秋の受験申し込みをし、なぜ不合格になったかを考えこの3点を反省し以下のように改善することにしました。

1. 勉強は6-2)、6-3)の問題集を繰り返し解くことにし、解らないところだけReference Manualで復習することにした。
2. 苦手意識のあるThermal and Fluids Systemsをこの際克服しようと思い、この分野に勉強を絞った。
3. 妻の理解と協力を得て土日は基本的に半日図書館にて勉強することを宣言し、時間を確保した。

結果、試験時間に余裕ができ、また自分の解答にも手ごたえを感じ、試験時間後半には合格を確信しました。

【その後】

2010年1月に合格通知を受領し、あとは州登録を残すのみとなりました。

現在NCEESによるCredential Evaluationsを申し込んでいるところですが、詳細は登録後に体験記にてお知らせしたいと思います。

最後に、PE試験受験にあたり様々なアドバイス、励ましをいただいた社内PEの方々、また土日を受験勉強に専念させてくれた妻への感謝をここに記し、終わりとしたいと思います。

。

PE 試験合格体験記 4

1. 氏名：西山 大三
2. 会員番号：PEN0041
3. 専門分野：Civil

FE 試験

FE 試験のレベルは大学学部卒業程度ですが、自分の専門分野以外からも出題されるため、浅く広く勉強しました。暗記を中心とした勉強は行わず、試験中に貸与される FE reference handbook の内容をしっかりとマスターする勉強をしました。午前の内容は一般的な知識を問われるため、専門以外の分野まで幅広く準備しました。午後は、専門科目 (Civil) を選択しました。大学の授業内容を理解していれば解ける問題が多いので、押し入れから学生時代のノートを取り出して、勉強しました。



PE 試験

PE Civil は、施工、交通、土質、構造、水理・環境の 5 分野に分かれているため、どの科目で受験するか考えました。私は学生時代に構造力学を得意としていたので、当初は構造で受験しようと思いましたが、早速、準備に取りかかりましたが、その内容は設計知識を深く問うものであり、設計に詳しくない私には難し過ぎました。そこで構造での受験は早々とあきらめて、現職に一番近い分野である土質に変更しました。PE 試験は、印刷された参考書を自由に持ち込めるため、参考書の選択に時間がかかりましたが、結局のところ、定番とされている Civil Engineering Reference Manual for the PE Exam (CERM11) を中心に勉強することにしました。その理由は、PE 試験フォーマットに沿った内容が充実しているためです。PE 試験は、幅広い分野から出題されるため、全ての内容を勉強するには、Reference Manual が最適でした。

なお、2009 年から Civil の出題傾向が変更されて、新たに「施工」が加わりました。私が所有していた旧版の Reference Manual には、施工分野が十分に載っていなかったため、最新版を買い直すはめになりました。自分の受験科目に変更がないことを、FE・PE 試験を実施する NCEES のホームページで、こまめにチェックすると良いと思います。

PE 試験当日

PE 試験は、午前 4 時間・午後 4 時間の長丁場です。そして、お昼休みは 30~40 分程度だった記憶があります。お昼の時間が短いので、お弁当を持参すると良いでしょう。受験会場には受験者控え室があり、そこに荷物を全て置きます。そこから各人が試験に必要な物を持って、試験会場に移動します。そのため、大量の参考書を持参すると、自力で運びきれなくなる可能性があります。荷物は最小限にすることをお勧めします。なお、携帯電話は持ち込めず、試験会場に時計がないこともあるので、腕時計があると便利です。私が持参したものは、参考書一式、NCEES 指定の電卓 (2 個)、受験票、身分証明書、時計、水・スナックです。小物類は透明なケースに入れて、持ち運びしやすいようにしました。ちなみに、受験番号は年金番号で、個人情報のためか受験票に明記されていないので、あらかじめ自分の年金番号を控えておくとう便利です。

試験のお土産として、8 時間一緒に戦った NCEES ロゴ入りのシャープペンシルをもらえます。自宅のペン立てに飾られているシャープペンシルを見ると、PE 合格までの苦労を思いだし、「よく頑張ったな」と自分をねぎらうことがあります。最後になりますが、合格まで協力し支えてくれた妻に感謝します。

PE 試験合格体験記 5

1. 氏名 : 外村 琢
2. 会員番号 : PEN0043
3. 専門分野 : MechanicalPE
4. 試験日 : 2009 年 10 月
5. 受験回数 : 1 回
6. 勉強に用いた参考書・問題集

- ・ Mechanical Engineering Reference Manual for the PE Exam
- ・ Quick Reference for the Mechanical Engineering PE Exam
- ・ Practice Problems for the Mechanical Engineering PE Exam
- ・ Mechanical PE Sample Examination
- ・ 水力学, 森北出版発行 (大学時代の教科書)
- ・ 文部科学省学術用語集 機械工学編, 日本機械学会発行
- ・ 英和辞典

7. 試験に用いた参考書・問題集

- ・ 上記の参考書および問題集
- ・ 問題を解く上で頻繁に使用した公式等をまとめた資料 (ルーズリーフにて持ち込み可)
- ・ 参考書や問題集で分からなかった単語をまとめた資料 (ルーズリーフにて持ち込可)

8. 勉強時間 : 平均 45[分/日] × 30[日] × 9ヶ月 = 約 200 時間

月曜日から金曜日までは諸々の都合で勉強時間が取れないこともあったため、土曜日/日曜日で穴埋めして遅れが生じないように心がけました。

9. 合格体験記



・はじめに

PEの一次試験であるFEを受験するきっかけは、当時まだ学生だったときに就職内定先の部長（PE）から勧められたことです。米国エンジニアの資格であり、その意義や試験概要を理解して、自分も取得したいと強く思うようになりました。また、英語が不得意であるため、試験準備をすることで英語のよい勉強になると考えました。現在、社内には私を含め2名のPE合格者がいます（当時の部長は引退）。2名とも年齢は30歳になったばかりの若手エンジニアであり、今後も自らの技術力を高めつつ、社内外を問わずにさらに若いエンジニアへ本資格を通じて勉強することを勧めていきたいと考えています。

・PE試験に向けた準備/対策

まず始めたことは（受験15ヶ月前）、JSPEが発行している【PE試験受験TIPS】を入手し、合格した先輩方の有益な情報を把握することでした。試験準備から試験時の注意点まで、多くの先輩方の経験が記載されており、その中には具体的にどの参考書を使用して勉強したかも載っていました。

次の準備として（受験13ヶ月前）、TIPSより得られた情報を参考にして、問題集/参考書を入手しました。前記した参考書は米国を中心に販売されているものですが、インターネット等で容易に購入することができます。問題集/参考書が手元に届き、中身を流し読みしたところ、内容がとても密で参考書を買えば必要はないと判断しました。ただし、不明な学術用語が多かったので、近くの書店にて、工学書コーナーに置いてあった学術用語集を購入しました。これは日本語からも英語からも引くことができる辞書形式の用語集であり、私が購入したものは機械工学ですが、その他にも土木/建築/化学/電気等の分野があったので、他分野受験の方にも役に立つのではないのでしょうか。

次に行った準備が試験勉強計画立案でした（受験10ヶ月前）。自宅から会社まで近く、また勤務時間が不規則になりにくい業務内容であったため、計画立案は容易でした。これまでの経験として、睡眠時間を削っての勉強は効率が悪いことが分かっていたため、一日の勉強時間は欲張らずに短くし、長期的に計画（勉強時間は8.を参照）を立てました。

実際に試験勉強を開始したのは受験9ヶ月前でした。まず、Sample Examination（80題）を1日に2問のペースで全問解き、このときに不明な英語は詳細に調べて一覧表にまとめました（この一覧表は試験時に持ち込み、実際に使用する回数は少なかったが大変役に立ちました）。40日間費やして全問解き終わり、再び同じ問題を1日3問のペースで解きました。二回目に解いたときにつまずく問題は苦手分野であると判断し、後でわかるようにマークを付けました。20問程度が苦手分野に相当しました。これを克服するため類似の問題をPractice Problemsから抽出し、完全に理解できるまで十分に勉強しました。このときは1日1問のペースでした。これには約3ヶ月を費やしました。

次に Practice Problems に記載されている解法全てに目を通し、解答文が短く、試験時間を想定した6分間で解き終われる問題にマークを付けました。その問題を1日3問のペースで解き、2ヶ月程度を費やしました。

ここまで既に7ヶ月を費やしており、残りの2ヶ月は Sample Examination 全問と、1問を6分間で解答可能な Practice Problems を1日6問のペースで繰り返し解きました。これと平行して、問題を解く上で参照した Reference Manual の該当箇所に見出しをつけ、試験時に短時間で検索できるよう準備しました。さらに、頻繁に使用する公式等を一覧にまとめました。

受験日が数日後に近付き試験会場等の連絡があり、場所を確認したところ、幸いにも学生時代に何度か行ったことがある場所でした。仮に初めての場所だった場合には、事前に自宅からの移動を想定し実際に一度行ってみたいつもりでいましたが、それを省くことができました。受験一週間前には、実際に受験する日のタイムテーブルをシミュレーションする目的で、起床時間から試験時間終了まで時間を実際に確認しました。

長い準備期間のおかげで受験日まで特に焦ることもなく、ほぼ計画通りに準備/対策を行うことができましたと思います。結果としては合格することができましたが、仮に失敗したとしても計画は重要であり、何をやって失敗したかが残っていれば次へ活かすことができると思います。

・ PE 試験時の対策

まず私が気をつけたのが服装です。試験会場は当然室内であり、空調がされていますが、試験日は10月であったため、日によって寒暖の差が激しく、8時間の試験時間中に暑い寒いで余計な神経を使いたくないと考えていたからです。また、空調が故障することもありうるため、十分に対策を立てて試験に臨みました。

試験が始まってしまえば普段通りにひたすら問題を解くだけでした。解けない問題は、解いていないことを後で分かるようにマークをつけてあっさり後回しにしました。自分の知識や参考書をフルに活かしても、自信を持って解答できたのは60%程度でした。当然ですが解けない問題はあきらめず、選択肢の答えを一つ一つ検討し、エンジニアの鋭い感覚で解答しました(笑)。試験中の午前/午後でトイレには各2回程度行ったと思いますが、解けない問題があったおかげで時間が足りないと感じませんでした。

その他に特筆すべき対策はありませんが、忘れ物をしないことを挙げておきます。下記は私が自宅を出発する前に確認したものです。

①受験に必要な書類

身分証等、提示を求められることもあるため、ファイリングして準備しました。

②試験時に持ち込み予定の参考書(試験勉強に使用した参考のみ)

実際の試験時にはあまり使用する機会はありませんでしたが、持ち込んだおかげで2問程度正解が増えたような気がします。

あまり多くを持ち込むことはお勧めしません。使用する機会が少ないことと、自宅から会場まで運ぶ間に疲労してしまいます。

③電卓（故障を想定し2台持ち込みました）

当然ですが、認められた機種を事前に確認しました。

④食べ物/飲み物

事前に準備したものを自宅から持参しました。試験中に飲食してもよいのですが、私は食べながら勉強する習慣が無かったので、飲み物だけ試験時に持ち込みました。

⑤腕時計

会場にも時計がありましたが、一応、精度のよいデジタル時計を持参しました。

・おわりに

初めての受験で合格することができましたが、合格のためには諸先輩方からの有益な情報が大きく役立ったことは間違えないと思っており、大変感謝しています。試験に合格したことで一つの区切りにはなりましたが、今後は州登録を行う必要があり、エンジニアとしてもまだまだ勉強することは多くあるので、今後も多くの経験を積んでいきたいと考えています。

FE/PE 試験

NCEES発表の2009年10月の試験合格率と日本の会場での合格率

試験会場 日本

クラス	Oct-09			Apr-09		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
FE	160	99	62%	63	33	52%
PE	82	44	54%	56	20	36%

FE試験合格率

Exam Module	First-time	Repeat takers
Chemical	87%	61%
Civil	74%	29%
Electrical	71%	25%
Environmental	82%	37%
Industrial	65%	26%
Mechanica	78%	27%
General	73%	28%

PE試験合格率

Exam	First-time	Repeat takers
Agricultural	80%	0%
Architectural (April 2009)	66%	56%
Chemical	80%	33%
Civil	61%	28%
Control Systems	81%	60%
Electrical and Computer	63%	22%
Environmental	75%	39%
Fire Protection	64%	43%
Industrial	67%	21%
Mechanical	69%	36%
Metallurgical and Materials	56%	33%
Mining and Mineral	73%	38%
Naval Architecture and	100%	67%
Nuclear	79%	80%
Petroleum	83%	29%
Structural I	45%	28%
Structural II	65%	36%

Ethics

PE0106 金城 隆

ON ETHICS

見知った競合相手？

PE が以前の雇用主と交わした特定地域におけるエンジニアリング業務を禁止する合意を反故にしたとき、彼は一線を越えてしまったのか？

状況

S. Stabblischt PE は顧客が行う種々の設計業務に対するコンサルティングを請負う中堅会社

のオーナーで N. O. Sendt PE を下請け業者として雇っている。 Sal. E. Forth PE は Stabblischt に雇用されていた。

Forth は Stabblischt の会社を辞めて、自身のエンジニアリング会社を設立した。 Stabblischt の会社に採用させる際 Forth は特定地域において1年間 Mechanical-Engineering 業務を制限する旨の雇用契約を Stabblischt と交わした。 Stabblischt の会社を辞めて一ヵ月後、Forth は Sendt に連絡を取り、Stabblischt の会社との雇用契約書にある特定地域内の Mechanical-Engineering 業務を Sendt の会社への引き合いを出した。 Sendt は Stabblischt と Forth の雇用契約条件を知らないが、このような条件を含む雇用契約があることは知っている。

あなたはどう思いますか？

Stabblischt が Forth に特定の地域において1年間 Mechanical-Engineering 業務を制限する雇用契約を結ぶよう要求することは倫理的ですか？

Forth の行動は倫理的ですか？

Sendt が Stabblischt と連絡を取り、Forth から Engineering 業務の引合いがあることを伝えることは倫理的ですか？

倫理委員会の見解

辞職時の条項を含む雇用契約書はしばしば倫理的であり、ある場合には法的である。

雇い主および従業員の責務は辞職の理由や動機、顧客との関係や過去及び進捗中のプロジェクト有無などの種々の要因によってたいていの場合判断がつきにくい。

工業分野のエンジニアは希少材料やデータ、特許権のある製品やプロセス、企業秘密などの高度な秘密情報をよく知っている。したがってエンジニアリング業務の雇用者がより広い範囲での制限条項を含む雇用契約書の適用は論拠のあることである。現在の産業では、顧客情報、マーケティング技術、業務提携を含む秘密情報はエンジニアリング会社が所有する最も価値あるデータである。

今回の案件に対する先の倫理委員会の見解に依り、委員会は上記の質問ある1年間の制限は妥当であり、受諾しうるエンジニアリング産業基準と矛盾しないと結論づけた。さらにこの契約条項は対象業務と地域に関して制限が掛かっている。適用基準となる「公正な理由」の釣り合いをとりつつ、委員会は Stabblischt が Forth にある雇用条件に同意するよう求めるのは非倫理的ではないと結論づけた。加えて、Forth がその雇用契約にサインすることも倫理的であった。に、

また委員会は Forth が Stabblischt との雇用関係を解除してから一ヵ月後に Sendt と契約を結び、契約条項にある特定の地域で Mechanical-Engineering 業務を行わせたことは契約上の責務を回避することであり、非倫理的と結論づけた。

Sendt が Stabblischt と連絡を取り、Forth から Engineering 業務の引合いがあることを伝え

ることは倫理的かどうかという問題について、委員会はこのような行動は Sendt が先ず Forth にたいして Stabblischt と連絡をする旨を伝えているならば、NSPE 倫理規定セクションⅡ.4、Ⅲ.6、Ⅲ.7に合致するとの見解であった。 Stabblischt は Sendt の顧客であり、Sendt の行動は NSPE 規定セクションⅡ.4に合致する。

さらに Sendt が誠実に事実に基づきプロフェッショナル作法に則り、誹謗することなく Forth の行動を

Stabblischt に報告するなら、NSPE 規定セクションⅢ.6またはⅢ.7に対する違反行為はない。最後に、委員会は Sendt には Forth から引合いがあったことを Stabblischt に伝える義務があったと考える。

Stabblischt が Forth に特定の地域において1年間 Mechanical-Engineering 業務を制限する雇用契約を結ぶよう要求することは倫理的である。

Forth が Stabblischt と競合しない旨の条項を雇用契約として結ぶことは倫理的であるが、Forth が Sendt にコンタクトして特定の地域において Mechanical-Engineering 業務を行わせることは非倫理的である。

Sendt には Stabblischt と連絡を取り、Forth へのエンジニアリング業務の引合いが来ていることを伝える倫理的な義務がある。

このシナリオは NSPE 倫理委員会のケース 07-5 に基づいており、無料コピーは NSPE メンバーサービス+01-(0)888-285-6773 から入手可能

訳者より

私が勤務している会社では本件のような厳格な雇用契約を結んではいません。ほとんどの日本企業では従業員と会社で雇用契約の書面を取り交わすことはないと思われます。会社から業務インフラと情報を貸与され、成果を会社に提供するわけですから、貸与されたモノの取扱に制限があるのは当然です。

人材の移動(離転職)が増えてくると日本での雇用契約の内容にも変化が出てくると思います。

会員からの投稿

【書評】内田 樹著「日本辺境論」新潮新書

日本人エンジニアの国際化は、言うまでも無く私達 J S P E の存在理由そのものなのだが、時々どうして米国 P E なのか、なぜ欧州 P E でいけないのか？あるいは欧米に目を向けずとも日本やアジアにも固有の良いものがあるではないか？と思うことがある。また、自分自身会社業務を通じて、先進国だけではなく途上国とも付き合いを重ねると、時には欧米流のビジネススタイルが本当に正解なのかと疑問に思うことも少なくない。正に universal と diversity との狭間に潜む ambivalent な感情。私自身、国際標準という言葉を使う度に、正直内心忸怩た

るものが無くはない。

さて、今回会員の皆様には是非紹介したいと思う書籍は、内田 樹著「日本辺境論」新潮新書である。昨年暮れに発売されたもの。実は、私は、この本をたまたま帰省中の息子の机の上で見つけ、何気なく読んでみて、タイトルから想像することとは少々違ったユニークな主張が発見できた。以下、内容を紹介する。

著者は、日本人のメンタリティは、常に外部に「正しさ」を求める弟子の発想、他国との比較においてしか自国を語れない民族であり、いつもきよろきよろしていると言う。これは否定のしようもない歴史的事実かもしれない。例えば、日本語の仮名という表音文字は、日本人のオリジナルではあるが、これは「仮」である。その逆は「真名」。即ち正式な文書には、漢字という表意文字が使われていた。私達の日本文化は、スタートから中華思想の辺境であった。

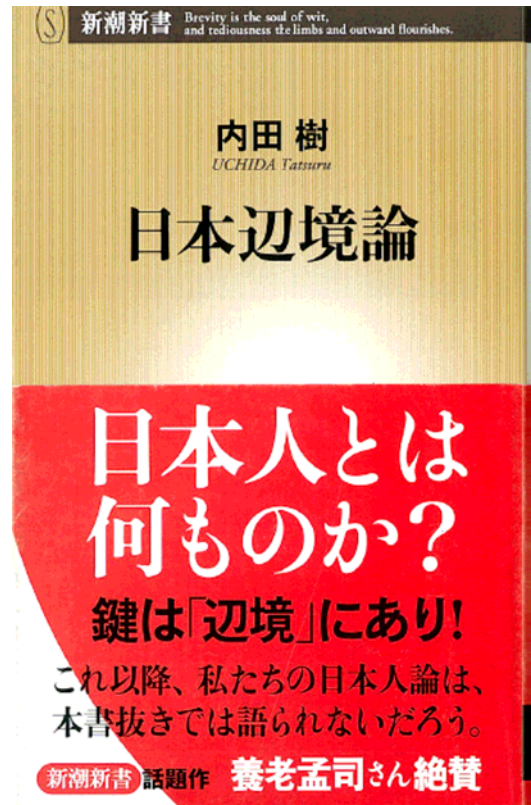
同じく中国文化の影響色濃い韓国もベトナムも、日本と同じような「仮名」のようなものを作り、一時は漢字仮名混じりのハイブリッド言語を使用したが、今は、既に漢字を廃止している。多分その分だけ英語に振り向ける時間は増えたであろう。この手の話は、よく耳にする話題だし、ああ、また誰かが「日本はだめだ」と言っているのだろう。タイトルを見たとき想像したのは、そのようなものだった。

しかし、読み進むと著者の主張は、少し違っていることに気付く。著者が言いたいのは、「苦手な分野に悩むよりは、とことん辺境でいこう」ということであった。辺境人は、常に自らの遅れや起源からの距離を自覚しており、それがために実に「学び」が旨い。辺境人の「学び」の効率を活かすべきである。先の言語の話に戻ってみると、今でこそ global literacy と同義語に見做されている英語だって、かつては辺境人の言葉だった。文法にしても実に規則性が乏しく、節操がないほど借用語が多いのが、英語の特徴である。

結論。私達が今危機感を持つべきは、むしろ「学び」の劣化ではないか？日本も昔とちがって物質的にも、そこそこの国になったという安心感が、我々に刷り込まれた「辺境人」のよい遺伝子も駆逐しつつあるのではないか？辺境人独特の現状に満足せず、愚直によきものを外に求める姿勢、直接的な報酬を求めない「学び」、あるいは独特の時間感覚など、失ってはならないものかもしれない。

有名なアーノルド・トインビーの「歴史の研究」にも辺境の話があったような気がするが、著者は、一切触れていない。専門はフランス現代思想、ユダヤ文化への関心も高く、アングロサクソンの論理を借りずに自説を主張したかったのではないのか？ 興味深い一冊であった。

JSPE 会長 土屋 雅彦



損害賠償保険

PE0021 坂井 元彦



Professional Engineer の活動は、アメリカ合衆国内で技術コンサルタントを Business として開業する場合以外は、殆どが何がしの Paper(s) を Certify する仕事に限られていると理解しても大きな間違いでは無いようである。私自身も PE の登録をしてから後も、エンジニアとして、設計図を画いたり、計算書を作成したり、仕様書を作成したり、事故報告書を作ったりと色々なことを経験してきたが、PE の資格で実際に行なった仕事は第三者の作った Papers を Certify する仕事だけであった。皆さんがこれから実際に経験されるであろうお仕事も、lethal vessel を設計するなど、アメリカの federal code に PE が設計することを規定しているような特別な仕事で無い限り、Certify 以外の仕事は PE としては殆ど無いものと思われる。これは私が過去に見聞きした物からの勝手な判断なので或いは間違っているかもしれないが、大きな間違いはないと思っている。

損害賠償保険の必要性は、その Certify された Papers の内容が何がしのトラブルの原因となったとして、発生した損害を賠償せよとの要求が Certify した人の責任だとして PE に降りかかって来る事が起こりうる可能性があると考えられる事に起因する。実際アメリカではしばしばこのようなトラブルが発生しているとの話を何度か聞かされた事がある。日本ではもしこの様な事案が発生しても、旧民法下の判例が尊重されて、損害賠償の額は最大でも契約金額を上回らないのが通例だと聞いた覚えがあるが、アメリカなどの諸外国では一般にそのような紳士的な慣例が無い様で、つまり青天井の要求が出てくる可能性があるとの事であった。

ある日本の PE が勤務先の会社で書類の Certify を依頼或いは要求されて、責任は一切会社が負担をする旨の約束（ご本人は上司との間の契約書と言っていた）の基で Certify したとの事を聞いたことがあるが、法人の契約は、その法人の代表者即ち代表取締役が法務局に登録してある印鑑（実印）が捺印されていなければ、問題が起こった時には法的には恐らく契約と見做されないであろう。またこの様なことが問題にならずに、会社の金で解決した場合は、丁度会社の自動車の運転手が起こしたスピード違反の反則金を事業者が代行して支払うのと同じで、社会通念的には世界的に認められない事案となる恐れがある。

前置きが長くなったが、要するに PE として仕事を進めていく上では、損害賠償保険は避けて通れない要件の一つだと考えることを推奨したい。話は簡単なようだが実は色々な問題があり、かならずしも一筋縄では行かない懸念がある。一般に損害賠償保険の保険金はそう簡単に支払われない事を予め知っておかなければならない、と言うのが私の長い実務経験から学んだ教訓である。昭和30年の夏に自動車損害賠償保障法が施行されるまでは、現在任意保険と呼ばれている民間の保険会社の賠償保険しかなく、色々のトラブルが新聞やラジオを賑わしたものだ。恐らく母集団が小さい為、保険が成立しにくかった為ではないかと想像する。現在 PE 一個人としてアメリカその他の国の所謂 PE 保険に加入した場合に、第一に考えなければならないのは、日本の外国為替管理法にある、「非居住者の送金又は債権（これが損害保険受取人の権利）の輸入を禁ずる」条項に引っかからない事を確認する必要が無いことを祈る

が、PE 保険としての先例が無い為、なんとも私のような法律や金融に無知な者が判断できる事ではない。

又最近パソコン通信が発達して、居ながらにしてアメリカのPE保険業者の広告が簡単に入手できるようになっているようであるが、一方米国の損害保険業界は日本のそれのように整然としていないようで、Insurance Company (who writes the insurance policy), Insurance Agent, Insurance Broker などが何れもが Authorized Insurance Business Agency として名乗りを上げているようなので、どれを選んでコンタクトすれば良いか選択に迷ってしまうことになりかねないのが実情のようだ。

以上思いつくままに negative な話ばかりを並べたが、私が勧めたいのは、JSPE が団体としてかなりの母集団を纏め、日本在住のアメリカ人 Insurance Broker にコンタクトして、何らかの方向が見出せないか努力してみるのが最善策ではないかと考える。

現職を離れて20年以上経た今日、私の見解に間違いや時代遅れの見解が含まれている可能性のある事を念頭に置いて御一読下さるようお勧めする。

海外からの連絡

シンガポール新生活
PE-0022 植村大輔

私は、本年1月より Mapletree Logistics Trust Management という会社のシンガポールの本社に勤務しております。投資家から資金を集めて、空港や港湾の近辺に倉庫を建設し賃貸するビジネスをアジア各国に展開している会社です。この建設および開発の責任者という立場で、入社2ヵ月半で、シンガポールをベースに、すでにマレーシア、日本、香港、中国、ベトナムへ計5回も出張に出ました。

シンガポールは現在活況に沸きかえっております。街にはクレーンが林のように立ち並び、沿岸には大型船が衝突しないか心配になるほど沢山待機しています。先日もカジノがオープンして世界中の話題を集めました。リーマンショック直後は少し経済も縮小しましたがもうその影響は全くといってよいほどありません。では、東京23区ほどの面積の小国がなぜ国民ひとりあたりのGDPで日本を超える豊かな国になったのでしょうか。マラッカ海峡の入り口に位置する地政学的有利さのほか、「政府の民間



職場の仲間と

ビジネスへの深い関与」があることを感ぜずにはいられません。例えば、私の会社の株主である Temasek という会社は政府系投資会社で、弊社以外にもシンガポール航空、SingTel（最大の電話会社）も傘下に収め、その豊富な資金力で各社とも業績を伸ばしています。また、弊社の前身はシンガポール港湾局ですが、欧亜の多くに埠頭を建設してその代償としてシンガポールに寄港してもらうという「ビジネス」を広く展開しています。弊社がベトナムに建設中の倉庫も、ベトナム、シンガポール両政府による出資で開発された1000haもの広大な敷地にあります。

人口500万足らずの国ですから、海外へ目を向けなくてはならない事情はありますが、政府、民間が一体となって世界戦略を構築し発展している姿は日本にも示唆するものがあると感じます。これがうまくいっている背景には、官民の癒着や「親方日の丸」のような「負の体質」が少ないことがあげられます。

近年日本は「脱官僚」という言葉がはびこり、政府の民間への関与を抑える方向に向いています。しかし、私からすると、日本は他国に技術や資本を輸出する際の官民の結束はむしろ弱く、それゆえに欧米諸国に「敗れる」ケースが多くみられ、それが長期の経済不振につながっているとさえ感じます。

こちらでは日本の技術の高さは誰もが認めています。特に日本のゼネコンの質の高さはしばしば賞賛され、私もOBとしてうれしくなることがよくあります。しかし、その技術を世界に広げていくには官民挙げての行動が大切だということも、ここシンガポールにいると痛感します。「脱官僚」の落とし穴に気がつけたいものです。

シンガポールを賞賛することばかり申し上げてきましたが、シンガポールの国家モデルは、サステイナブルかと問われると、残念ながらそうは思えません。もともと独裁国家であり、政治も PAP という政党のほぼ独占です。最大の新聞社も政府のかなり厳しい報道規制を受けています。このような状態が長く

続けばやがてほころびが出始めるのは国や企業でもよくある話です。米国における民主共和のせめぎあい、言論や行動の自由のほうの方が長い目でみると健全で安定していると感じます。今すぐには大きな転換はないでしょうが、ゆくゆく成熟してきたときにソフトランディングしていく姿を期待したいものです。私は昨年の今頃はといえば、サンフランシスコにおりました。その後、半年間浪人生活も経験しましたが、世界の様々な地で技術を活用して働ける喜び、PEとしての誇りと責任をひしひしと感じる今日この頃です。

理事会ニュース

臨時総会開催

2010年2月20日に臨時総会を開催いたしました。大久保監事が体調不良により監事辞任を提出されたため、追加の理事候補を募集し、臨時総会にて日野PEを満場一致で監事として承認しました。

企画部会

ボランティア活動のお願い



臨時総会会場

昨年の秋以来、企画部会では、我々Professional Engineerが出来る様なVolunteer活動は無いものかと考え、一方で、お仕事を持っておられる皆さんの時間的制約や、お立場などを考えながら試行錯誤(或いは思考作後)してきましたが、余り良い案が思い浮かばないので、差し当たり、日本の大学に來ている外国人留学生(特に工学部)に何らかのsupportが出来ないかと考え、東京近辺のメンバーの活動として東大と早大の工学部を往訪し、この話を打診してみました。どちらの大学にも、最初は何処の馬の骨とも判らないJSPEからの話には全然見向きもしてもらえませんでした。大事な学生を外部の団体に紹介するので当然だと思い、東大の某教授に紹介して頂き、やっと東大工学部の留学生センター交歓室にたどり着くことが出来ました。この室長である前川教授にはまだお会いする機会を得ていませんが、植村前会長のご友人だそうですので、植村さんがご帰国の折にでもコンタクトして頂いて、JSPEを大いにPRして頂きたいと考えています。

現在のところ、企画部会長の金城さんを中心に、同留学生センター一室日本語教室の教官の方々と打ち合わせ・連絡等を進め、2月5日に日野PEと彼の部下に出席して頂き、第一回の交歓会を持つことができました。いささか講義風とも思える雰囲気でしたが、留学生5名、東京大学の教官2名、大学が委託している国際日本語普及協会講師2名の出席を得て、日野さんがご用意された土木工事に関して、日本の技術者が世界で活躍しているPC資料(動画)を提示しされ、口答で補足説明が加えられました。留学生からの活発な質問もあり、その応答の時間も含めて、与えられた90分を少しオーバーする盛会でした。使用した言語は日本語でしたが、彼らの質問などを聞いて、その理解力の非常に正確なものには驚きました。東大からは、もっと頻繁に開催するよう求められていますが、我々側の応募が少ない為、今期は一旦打ち切り、4月からの新学期に計画を再開することになっています。是非、皆さんの会社のPRなどもこの機会をご利用頂き、積極的なご応募をお願いします。横浜のEngineers' Salon (YES) では、現在この種の活動を開始していませんが、皆さんのご賛同が得られれば、横浜国大工学部や慶応理工学部とコンタクトするつもりであります。

一般に、日本人は欧米の人達、特にヨーロッパの人達に較べて、Volunteer活動が少ないように思われます。しかし我々はProfessional Engineerの資格を獲得し、これから世界各地に赴き活躍しなければなりません。積極的にVolunteer活動に参加し、彼らの生活習慣の一部でも体験して頂く事は有意義だと思います。日本でも江戸時代には、敵討ちの助太刀など非常に純粋なvolunteer活動が美德とされていた筈ですが、明治以降の文明開化では精神的な面が等閑に附されて、工学的な機械・工具及び便利な生活道具の紹介・流入が中心となってしまっているように思われますが、考えすぎでしょうか。このような現状には、我々Engineerもい

ささか責任を感じる必要があるのではないのでしょうか。

渉外部会

1月-3月のJSPE 対外活動状況は次のとおりです。

渉外部会では、PE 制度を日本に定着させ、またPE/FE 会員の交流の場を全国に広げるため、ご要望があれば、随時どこへでもお伺いします。ご要望などありましたら external.2007@jspe.org まで。



2010年3月26日

横須賀米軍基地にて原子力空母ジョージワシントンの見学に16名が参加した。艦内を格納庫や飛行甲板さらに管制塔まで見学が出来た。空母の巨大さ、最大75機の艦載機を離発着させることが出来る、兵士の熟練度とそれを支える各装置の技術に圧倒されました。



空母ジョージワシントン飛行甲板

会員部会

3月6日に32名の参加でFE/PE合格祝賀会を学士会館で行いました。合格者の参加は
会員 PE 合格者 6名、会員 FE 合格者 1名
非会員PE合格者7名、非会員FE合格者4名
当日2名の方が会員申し込まれました。
次回は9月18日に学士会館で開催する。



FE/PE 合格祝賀会

教育部会 CPD セミナー

教育部会 CPD セミナーについて

教育部会では、2009年4月～2010年3月に38回（東京地区72hPDH分、関西地区46.5hPDH分）のセミナーを開催し、延べ405名（PE211名、PEN61名、FE65名、他48名、非会員20名）の参加を得て、PEに対して延べ783.5hのPDHを発行しました。また、米国PMI認定のPMPやPMP受験を目指す方には、延べ858hのPDUを発行しました。PDHやPDU獲得でお困りの方は、是非JSPEが提供しますCPDセミナーをご活用下さい。

1. 第157回CPDセミナー（東京地区）

第157回CPDセミナーとして、2月12日（金）に成田国際空港の見学会を開催いたしました。今回の見学会は、成田空港を運用している成田国際空港株式会社から義本正実PEに空港内の諸施設をご案内いただきました。

管制塔やBHA（バケイジハンドリングシステム）、エプロン舗装工事現場など、普段、見る事ができない制限区域を見学させていただきました。高度の安全性とセキュリティが求められる設備を早く正確に運用するために様々な工夫がなされており、例えば、海外の空港ではしばしば起こる荷物のロストが成田空港では発生していないことなど、その一端を垣間見ることができました。さらに、懇親会の会場では、成田・羽田空港の将来展望について等も御説明頂きました。

今回は平日開催にもかかわらず、中部地方や北陸地方からお越しいただいた方を含め、30名近くの方に参加いただきました。また、各見学箇所で見学時間が大幅に超過した熱のこもった見学会でした。

2. 鬼金CPD2009・関西コース（全10回コース）

関西では、プロジェクトマネジメント研修コースを神戸元町の兵庫県民会館にて月1回開催しています。1月～3月は、毎回10名程度の参加で、以下のセミナーを実施しました。

第6講 2010年1月9日（土） 13:00～17:00

Project Quality Management & Project Integration Management (I)

第7講 2010年2月6日（土） 13:00～17:00

Project Human Resource Management
& Project Communications Management

第8講 2010年3月6日（土） 13:00～17:00

Project Risk Management

なお、2010年4月以降は、以下のセミナーを予定しておりますので、ご興味ある方は、お気軽にお問合せ下さい(rep@jspe.org、阪井)。

第9講 2010年4月3日（土） 13:00～17:00

Project procurement Management

第10講 2010年5月15日（土） 13:00～17:00

Project Integration Resource Management(Ⅱ)
& Project Management Professional

また、第9講開催日4月3日(土)の午前9:30~12:00は、「PE受験・登録セミナー」を開催予定です。

3. 鬼金 CPD2009・関東コース(全10回コース)

東京においても、プロジェクトマネジメント研修コースを東京水道橋の貸会議室内海にて月1回開催しています。1月~3月は、毎回10名程度の参加で、以下のセミナーを実施しました。

第5講 2010年1月16日(土) 13:00~17:00

Project Cost Management

第6講 2010年2月20日(土) 13:00~17:00

Project Human Resource Management
& Project Communications Management

第7講 2010年3月20日(土) 13:00~17:00

Project Quality Management & Project Integration Management(I)

なお、2010年4月以降は、以下のセミナーを予定しておりますので、ご興味ある方は、お気軽にお問合せ下さい(rep@jspe.org、阪井)。

第8講 2010年4月24日(土) 13:00~17:00

Project Risk Management

第9講 2010年5月22日(土) 13:00~17:00

Project procurement Management

第10講 2010年6月19日(土) 13:00~17:00

Project Integration Resource Management(Ⅱ)
& Project Management Professional

4. 欧米流交渉術コース(全5回コース)

東京地区では、まなび株式会社代表取締役の大塚雅文氏(MBA)の御指導の下、欧米流交渉術コースを東京・赤坂JSP&E事務所にて10月から毎月1回開催しました。1月~3月の内容は以下の通りです

第3回 2010年1月9日(土) 10:00~13:00

就職給与交渉：2社から入社のおファーを得ているMBAコースを修了者として、条件が悪い方の会社から良い条件を引き出す交渉

第4回 2010年2月13日(土) 10:00~13:00

不動産開発プロジェクト交渉：地方自治体の都市設計者として、旧市街の再開発のために不動産開発業者と開発条件の交渉

第5回 2010年3月13日(土) 10:00~13:00

部品供給交渉：アルミ鋳造部品のサプライヤーとして、ポンプハウジングの発注者と価格交渉

4月からは、東京地区でグローバルエンジニアが身につけるべきビジネス感覚コースを開催します。ぜひご参加ください。

ホームページ便り

JSPE のホームページは、昨年 1 月にいたずらの書込みの攻撃にさらされました。English のコーナーの投稿欄 BBS がパスワードなしで書き込めることに付け込まれて毎日毎日とめどなくヘンな書込みがあり、管理人としては 1 日に何度も消しに行くという消耗戦を 1 ヶ月以上強いられました。その後、対策が功を奏して平穏な日々が続いていたのですが、今年に入って新たな攻撃を受け、こんどはシステムそのものに影響する深刻ものであったため、English BBS のページを閉じました。

ただいま English ページを刷新する準備を進めています。新年度には海外の皆様をクリックしていただいても読み応えのあるものに徐々に変わっていく予定です。もちろん日本語のページもより良いものにしていきたいと思っています。よいアイデアがあったら是非 webmaster@jspe.org までお寄せ下さい。

(広報部会 部会長 柏井 善夫 public.2007@jspe.org)

Coming event

2010-4 月 18 日 PE/FE 試験

2010-6 月 12 日 JSPE 総会

2010-9 月 18 日 PE/FE 合格祝賀会

新入会員紹介

敬称略、順不同

- 氏名： 山浦 良久 PE-0178
- 資格： PE (Mechanical, Texas)
- 専門分野： 機械工学
- 入会動機： Texas 在住のため、日本での活動状況を知りたくて入会しました。
- 自己紹介： Texas に来て 3 年になります。発電所の許認可、見積もり設計をやっています。
- JSPE に望むこと： 他業界の状況など Engineering 一般の情報。

- 氏名： 安井 克典 FE-0354
- 資格： 技術士一次試験（建設部門）
- 専門分野： 土木
- 入会動機： 海外 PJ に関わる方との交流
- 自己紹介： 広島県出身。現在は東京都在住の 27 歳。大学院卒業後、ゼネコンに就職。入社 3 年目で、2 年間で設計業務（橋梁、道路、地盤改良、プラント土木など）、10 ヶ月間を現場施工管理（プラント建設）。

趣味は、バスケットボール、スポーツ観戦、海外旅行。バスケットボールは特に好きで、時間があればアメリカに NBA 観戦に行きます。また、知らない場所や環境に入ることが好きで、ふらっと海外旅行に行くことがよくあります。アメリカ、カナダ、韓国、インド、ギリシャなどあちこち出かけました。自然をみるのが好きな方は、アラスカがお勧めです。

みなさんとお会いして、いろいろな話が出来ればと思います。宜しくお願いします。

■ J S P E に望むこと :

PE 取得に向けたアドバイス。交流の機会を設けていただくこと。



■氏名： 檜山 直矢（ひやま なおや）PEN-0038

■資格： 特に無し

■専門分野：機械工学

■入会動機：業種を超えた様々な方々と交流を深めることにより人間関係を広げ、エンジニアとしての幅を広げたいと思い入会しました。

■自己紹介：横浜市在住の33歳です。入社以来、海外の火力発電プラントの計画・設計に従事しており、これまでインド、UAEなどで長期の駐在経験があります。趣味というほどのものはありませんが、たまに週末の夜はクロスバイクで近場のポタリングを楽しんでいます（昼間は3歳の娘と遊んでいます）。

■ J S P E に望むこと：セミナーや交流会など気軽に参加できる場であれば良いなと思っています。



■氏名： 佐藤 寿和 PEN-0039

■資格： 乙種第4類危険物取扱者、

■専門分野：機械工学【石油化学プラント・配管設計】

■入会動機：

1. 州登録にあたり情報収集のため
2. PEを通して社外の方との交流する機会を得たかったため
3. CPDに関する情報を継続的に得たいため

■自己紹介：

秋田県横手市（雪で作るかまくら、横手やきそばはご存知の方も多と思います。）出身、千葉在住、現在シンガポールに長期出張中。まだかろうじて20代ですがこれが発行されるころには30代になるはず。海外の顧客・パートナーを相手に仕事をし、様々なエンジニアを見ている中で「世界での自分の客観的な価値はどのくらいなのか」ということが解らず、まずはPEになることで自分の価値を高めたいと思いPE試験を受験しました。これからの日本人エンジニアとして果たして世界からどういう役割を期待され、ど

ういう仕事をしていくべきかを日々考えております。PEの方々との交流で道筋が見えてくるかと期待しております。

■JSPEに望むこと：

PEという資格をもっと日本に広め社会的に認知してもらうことが重要かと思ひます。例えば、大学生に対してこういう世界的な資格があり、取得することの意義を伝えるセミナーを各大学で開催することで日本でのPE認知度も上がり、ひいてはPE数の増加、PEの社会的認知拡大につながると思ひます。

■氏名： 川田尚弘（かわだ なおひろ） ST-0006

■資格： EI

■専門分野： 建築構造力学・流体力学

■入会動機： PE試験とその登録に関する情報を収集したいと思ひます。

■自己紹介： 2009年10月のFE試験に合格しました。この春から、日本大学大学院工学研究科に進学し、「流体と剛体の連成解析」の研究を進めていきたいと思ひます。PE資格を取得できるように頑張りますので、アドバイス等ありましたらお願いします。



■JSPEに望むこと： PEホルダーやエンジニアの方々との交流を図っていきたくと思ひます

■氏名： 松尾 毅 PEN-0046

■資格： 公害防止(大気1,1水質1,騒音振動),エネ管(熱),1冷,危険物甲

■専門分野： 伝熱工学

■入会動機： 昨年秋の二次試験に合格し、合格祝賀会への参加を検討するうちに、もっと情報を集めたくなり、入会させて頂きました。

■自己紹介： 大分県出身で長崎県の機械メーカーに勤めております。伝熱工学を専門とした業務を担当しており、この分野のグローバルスタンダードが知りたくなり、二次試験を受験しました。趣味はバイクでのツーリングです。二次試験の試験準備中に娘が生まれましたが、家庭サービスを若干おろそかにして試験勉強をしておりました。最近はお買い物にバイクで行く程度です。関東、関西に行く機会は決して多くありませんが、宜しくお願ひ致します。

■JSPEに望むこと： 二次試験後の登録がこれほど大変とは思っておりました。登録された方の体験記をもっと拡充して頂きたいです。また地方のため他メーカーの技術者と交流することがありませんので、JSPEの活動の中でこのような機会が得られればと思ひます。

■氏名： 佐藤 崇 PEN-0045

■資格： 技術士一次試験(機械部門)

■専門分野： 機械

■入会動機： PE 登録への情報入手と社外の技術者の方々との交流を持ちたく思い入会いたしました。

■自己紹介： 横浜市在住 36 歳です。プラントの燃焼機器設計業務に携わっております。PE 資格所得や JSPE の会員の皆さんとの交流を通して、技術/知識の幅を広げていけたらと考えております。

■ JSPE に望むこと： まずは PE 登録のサポートを頂ければと思っております。

■氏名： 齋藤 基貴 PEN-0044

■資格：

■専門分野： 化学工学

■入会動機： PE 登録のための情報収集、他業種の方との交流。

■自己紹介： PE 試験合格を機に他業種の方との交流および、登録への情報収集のために入会いたしました。仕事は原子力発電所の設計をしております。よろしくお願ひします。

■ JSPE に望むこと： PE 登録までの手続きをサポートしてほしいです。

編集後記

JSPE 発足から 10 年の節目を迎えます。発足当初は、日本人 PE の集まりで何をすべきか試行錯誤の繰り返しでした。最近では NSPE との連携、ETHICS、CPD、PE/FE 試験サポート、州登録サポートなど活動が明確になり、着実な成果を出してきている。日本人 PE の会員数が増加していることは成果の現れである。

JSPE magazine に関してのコメント、感想は edit.2007@jspe.org をお願いします。

編集委員

編集責任者： 神野

Ethics 編集委員： 田崎

会員紹介編集委員： 西川

海外からの連絡： 日野

合格体験記： 丹下

新入会員： 平山

州ボード情報： 川村

オレゴン試験資格認定委員会情報： 鈴木